

学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性をもち、たくましく生きる鈴西っ子の育成」

■ 令和6年度「学力・学習状況調査」の結果概要と今後の取組について

本年4月に6年生を対象に実施された「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果が7月末に文部科学省から公表されました。この調査は、児童の学力学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。結果については以下のとおりです。

#1 各教科の調査結果から

教科	平均正答率		
	本 校	三重県	全 国
国 語（14問）	66	67	67.7
算 数（16問）	57	62	63.4

教科	無回答率		
	本 校	三重県	全 国
国 語（14問）	1.3	3.4	4.2
算 数（16問）	2.0	2.9	3.4

上の表のように、平均正答率では国語・算数ともに全国・県を上回ることはできませんでした。特に算数に課題があることがわかります。

一方、無回答率においては、県や全国に比べて低くなっており、鈴西小の子ども達が粘り強く最後まで解答しようとしたことが分かります。

#2 各教科の調査結果からみる学習における鈴西小児童の強みと課題

○ 設問ごとの結果からわかった本校の子どもたちの強み

国語 相手や目的に応じて、伝わりやすい文章で話すこと

算数 速さが一定であることを基にして、道のりの増加から歩く時間を求めること

こんな問題

→ 3分間で180m歩きました。同じ速さで歩き続けると1800mを歩く時間は何分か

● 設問ごとの結果からわかった本校の子どもたちの課題

国語 目的や意図に応じて、相手が知りたいことと自分が伝えたいことを整理して伝える内容を考えること

算数 ・割り算において、「割られる数」が変わらず「割る数」が小さくなったとき、商はどうなるのか等、割り算の仕組みの理解に関連する知識理解

こんな問題 → $350 \div 7 = 50$ → $350 \div 0.7$ なら、商は50より大きいのか小さいか

・図形の特徴や構造から必要な数値を捉え、体積を求めること

こんな問題 → 直径22cmの球がぴったり入る、立方体の箱の体積を求める式

・道のりが等しい場合の2人の速さの違いについてかかった時間をもとに比べ、考えや理由を言葉や数を使って書くこと

こんな問題 → 家から学校までかなたさんは20分、ほのかさんは24分で歩きます。（ほのかさんとかなたさんは道は違うが道のりはどちらも1200m）どちらが早く歩いているか、答えとそう考えたわけを言葉と数を使って書く。

特に算数においては、「割り算の仕組み」や「図形の特徴の捉え」及び「数量関係について比べ方を考察し説明する力」に課題があることがわかりました。

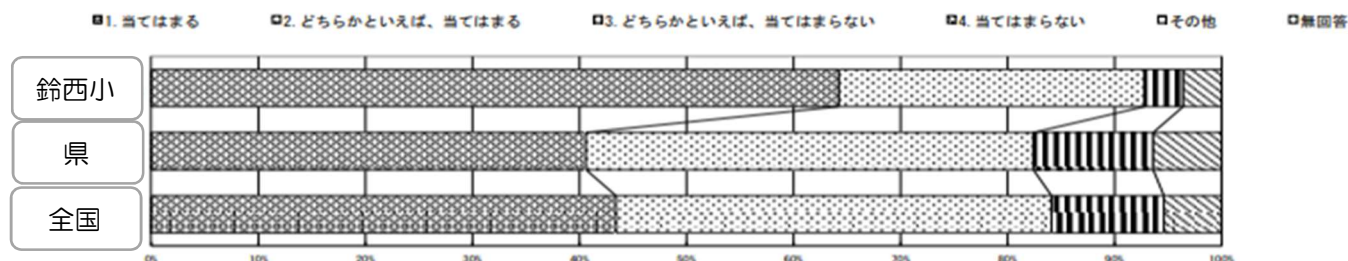
本校では、調査終了後、全教員で解答について採点及び結果を分析し、今後の授業改善にかかっています。授業の様子についても1学期同様この紙面で可能な限りお知らせします。

#3 児童質問紙に関する調査結果から

全国学力学習状況調査では、学習の理解度を調査する問題だけでなく、子どもたちの生活の実態等についての調査をするための児童質問紙もあります。児童質問紙の回答の傾向から見える鈴西小学校の子どもたちの強みや課題について以下のようにお知らせします。

○本校の子どもたちの強み

自分には、よいところがあると思いますか

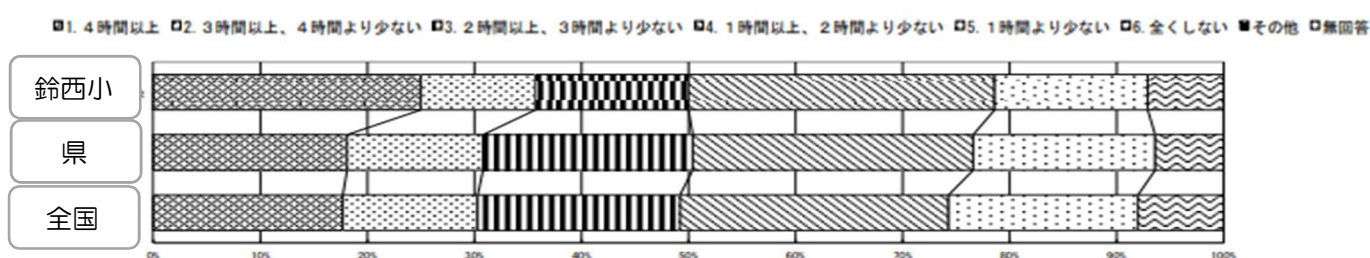


自己肯定感については、県や全国平均を大きく上回っています。昨年度までの本校のデータと比較しても年々肯定的な回答の割合が増加しています。これについては、保護者・地域の方が子どもたちを大切に見守っていただき、日常の子どもたちの姿を肯定的に受け入れていただいているお陰だと思います。自己肯定感と学力の間には相関関係があるともいわれています。

今後、学校でも肯定的に子どもたちを見守り、子どもたちが自信をもって活動に取り組めるようにしていきたいです。

● 本校の子どもたちの課題

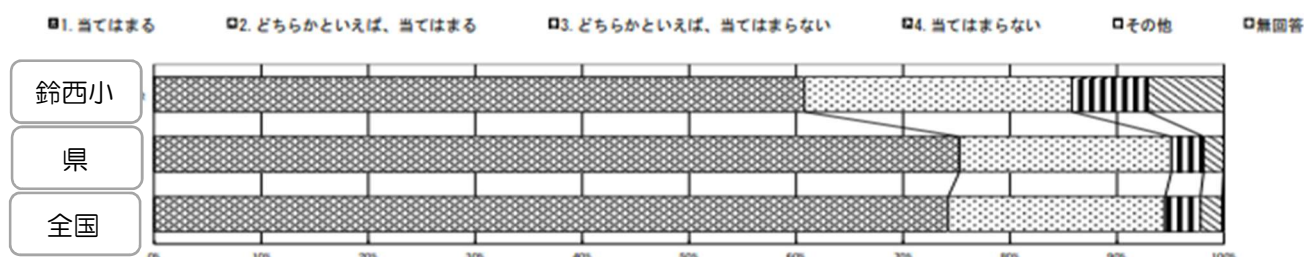
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。



上の図のように、鈴西小の子どもたちのゲームに費やす時間が県や全国と比べて相対的に長いことがわかります。ゲームを禁止する必要はありませんが、ゲームとともに勉強や読書、運動とバランスよく時間配分して生活ができるとよいです。また、ゲーム以外に楽器や手芸、料理、工作及びスポーツなど、「熱中」できることが見つけられるとよいです。

学校でも、「読書・家庭学習強化週間」の取組を継続していきたいと考えています。取組をとおして各御家庭で、有意義な時間の使い方について考えていただけるとありがたいです。

算数の勉強は大切だと思いますか。



鈴西小の子どもたちは、県や全国と比べて勉強を大切に感じている児童の割合が少ないことがわかりました。このことはとても意外でしたが国語でも同様の傾向でした。

言うまでもなく、勉強は大切なことですが、子どもたちが「大切さ」を実感できるような授業や普段の取組について学校が工夫していかなければならないことも感じました。普段の授業に加えサーチ学習などの機会に、教科の学習で得た知識が「人の話を理解すること」や「自分の考えを伝えること」等に役立っていることを意識させていきたいと思っています。